社会学コース

先生に聞いた！

社会学コースとは

高校までの「社会科」では、政治や経済など、国を成り立たせている仕組みについて学ぶことが多いでしょう。しかし、大学の「社会学」では、研究対象はそれだけに限定されず、家族・環境・都市の問題・マイノリティ・ジェンダーなど様々です。ニュースで取り上げられている問題など、世界や日本で現代起こっている事柄について研究できる一方で、自分の体験や感覚などの個人的な問題から出発して学びを深めていくことができる学問でもあります。皆さんも、普段の生活を送るなかで、家族や友達との関係について考えることがあるでしょう。社会学では、パーソナルな事柄を、より広い社会の文脈に位置づけながら考えることができます。それは社会学ならではの魅力と言えるでしょう。

笹島先生の研究内容

私が専門としているのは、都市社会学という学問です。「空間と社会の結びつき」という観点から、都市における様々な社会現象について研究しています。例えば、田舎では起こっていない現象が、都市では起こっているということがあります。そういったことが面白いと感じ、都会的な現象について研究しようと思うようになりました。なかでも、私は絵画や彫刻、音楽といったアートに興味があるので、文化社会学の視点から、アートを生み出す社会的な環境を研究対象にしています。作品そのものを解釈したり、評価したりするわけではなく、作品の生産・流通・消費という一連の流れの背景にある市場関係や、芸術家たちがどのような生活をして、どのようにして作品を創るのか、ということについて研究しています。現在は、アメリカや東京、ロンドンを比較しながら、都市における芸術の制度が20世紀のなかでどう変わってきたのかということに興味を持っています。

社会学コース講師　笹島秀晃先生

オススメの人

ノンフィクション作家の最相葉月さん。『絶対音感』、『セラピスト』など科学をテーマにした著作が中心ですが、星新一や東京大学応援部を描いた本もあります。丁寧な取材の進め方や、対象に向き合う真摯な姿勢が、物静かだが気持ちのこもった文体から伝わってきます。このような物書きになりたいと強く思わせてくれる人です。

パーソナルな事柄さえ学問に（笹島先生）

社会学コース3回生　上坂美桜さん

オススメの人

オススメは鈴木翔さんという２年次に受講した授業で取り扱った教育社会学に関することを研究されている方です。学校におけるスクールカーストや、SNS でのアカウント使い分けにも見られる所属集団によって自分のキャラを使い分けることなど、現代の若者を取り巻く友人関係のルールと社会の関係性について取り上げていました。

コースに入ったきっかけ

高校時代、地元の大学の先生が、地元の特産品を売り、地域活性化に繋げる活動をテーマに授業をしてくださる機会がありました。それをきっかけに自分でも調べてみると、地域活性化は社会学で学べることを知りました。社会学は本当に幅広い学問なので、学びを進めていくなかで、他の分野への興味もどんどん広がっています。

学生から見たコース

概論や基礎論の授業では、社会学の様々なテーマについて幅広く学べます。3年次になると、実習が始まります。調査法やデータの処理法について学んだうえで、実際に町に出かけ、フィールドワークを行ないます。フィールドワークや20名ほどの少人数の授業を通して、先生方やコースの仲間との距離がぐっと縮まります。

卒論

- ▼現代日本の子育て支援のかたち
- ▼自治体公認のゆるキャラとメディア社会の変容
- ▼「○○系女子」の記号消費的考察

社会学コースにとって「流行」とは？

学生から「卒論のテーマを流行にしたい」といわれるとドキッとしてしまう。流行を社会学的に研究することは難しい。もちろん社会学が流行を研究するのには不向きということではない。むしろ流行は19世紀末の社会学の黎明期から検討されてきた重要なトピックである。たとえばゲオルグ・ジンメルは、人々が流行を採用する動機を同調性と差別化の欲求の統一として分析しているし、ガブリエル・タルドは劣等者による優等者の模倣の法則として説明している。こう聞くと、なるほど流行についてわかったような気にもなる。ところが、それを実証的に検討しようとすると迷うことが増えてくる。イメージや商品が、どの程度広まれば「流行」になるのか。流行が拡散する過程は、どのようなデータを取得すれば明らかになるのか。きっと個人の意見や態度の総和には必ずしも還元できない、現象の集合性にたじろいでいるのだろう。しかしそれこそ「社会」の手応えだとも思う。（文・笹島先生）

心理学コース

先生に聞いた！

心理学コースとは

高校には「心理学」という授業はありません。そのため、「心理学」という言葉を聞くと、カウンセリングや臨床心理を思い浮かべるかもしれません。しかし、市大文学部の心理学コースでは、実験・観察・調査といった客観的な方法によって、人間や動物の心や行動に関する法則性を見つける「基礎研究」を行なっています。

また、ひとくちに心理学といっても様々な分野があります。心理学コースの教員の研究対象を挙げるだけでも、対人関係、自己、文化、認知、脳、行動など多岐に渡ります。理論的に考えるだけではなく、その理論が本当に正しいのかを実際のデータを基に自ら実証します。それがこのコースの魅力と言えるでしょうね。

佐伯先生の研究内容

私の専門は「学習心理学」で、人や動物の判断や意思決定などの行動を分析する学問です。大学時代からこの学問の研究を続けていますが、入学当初はイメージしていた心理学とは異なっており、驚きました。しかし、大学時代に様々な研究を行なったり目にしたりするなかで、動物でも、うまく環境を整備すると、規則的な行動を取ることがあるということに感動したのです。それがきっかけとなって、今の研究に至ります。例えば、現在はハトの「セルフ・コントロールと衝動性」について研究しています。具体的に言うと、ハトは、長い時間待つが与えられる餌の量は多いという選択肢と、すぐさま餌を与えられるが量は少ないという選択肢のどちらを好むのか、という内容です。なぜこんなにも動物について知る必要があるの？　と疑問に思われるかもしれませんが、動物を調査することだけが目的ではありません。他の動物と比較することを通して、人間というものを理解できるのです。

心理学コース　准教授　佐伯大輔先生

オススメの人

B.F. スキナー (1904-1990) というアメリカの心理学者を紹介します。ヒトや動物の行動の多くが、行動の結果によって影響されるという「オペラント条件づけ」の原理を発見した人物です。「行動の原因を環境に求める」という姿勢は、行動法則を探求する基礎研究と行動改善を目的とする応用研究の両方で役に立っています。

動物と比較することで、人間を理解する（佐伯先生）

心理学コース3回生　前川雄飛さん

オススメの人

沈黙の螺旋理論の提唱者であるノエル＝ノイマンです。同調を求める社会的圧力によって少数派が沈黙を余儀なくされる現象です。米大統領選挙の報道でトランプの発言が批判され、トランプ支持の表明にリスクを感じた人が多かったのではないでしょうか。この理論を知っていれば、トランプ勝利を予想できたのかもしれませんね。

コースに入ったきっかけ

高校時代から、心理学を学びたいという思いはずっと持っていました。その出発点は、いじめという行動をはじめとして、「なぜ人はそのような行動をするのか」ということへの興味です。「実験を用いて、得られたデータを分析する」という科学的手法が自分に合っていると思ったことも、このコースを選んだ決め手の一つですね。

学生から見たコース

2回生では授業で、レポート・グラフ・図の書き方や研究手法などの基本事項を学び、テキストに沿って実際に実験します。3回生になるとゼミに所属し、自分のやりたい研究に沿った実験を行ない、より高度な研究手法を学びます。しっかりとした準備が必要なのですが、先生や院生の方々の手厚いサポートを受けることができます。

卒論

- ▼大学生を対象としたブランド価値測定
- ▼犯罪者に対する反応に見られる黒い羊効果
- ▼代理報復における等質性認知の影響の検討

心理学コースにとって「流行」とは？

流行は、「複数の人々が、特定の物事や行動に対して、ある期間、共通の好みを示すこと」と定義できます。流行の現象を心理学で扱う場合には、流行がどのように発生し、人々の間でどのような過程を通して広まっていくのか、また、流行が広まる速さや持続期間は何によって決まるのかなどを、実験や調査によって確かめていきます。一般に、「流行」は、「同調行動」や「対人魅力」など、社会心理学で研究されるテーマに関係しています。私が専門とする学習心理学や行動分析学では、個人レベルでの学習を研究対象としています。例えば、「流行している服を買う」という場合、その人にとって、「流行している服」は、弁別刺激として機能しており、その服を買う行動は、結果（その服を着て歩くと多くの人が振り返ることなど）によって強化されているというふうに分析をします。流行が一時的であるのは、行動を強化する刺激の効力が一時的なものであるためと考えられます。（文・佐伯先生）